

日時	令和5年1月24日(火) 15:30~17:00
場所	オンライン (Zoom) (市役所6-1大会議室)
出席者	関係機関等 2名
	一般・特定・障害児 相談支援事業所 17名
	サービス提供事業所 31名
	委託事業所 6名
	(合計56名)

○テーマ…強度行動障がいについて

強度行動障がい児・者の支援においては、支援者一人ひとりの技術の向上だけでなく、専門的な支援や助言の下、チームで強度行動障がい児・者を支援できる体制を整備することが必要である。

今回、国立重度知的障害者総合施設のぞみの園より、強度行動障がいの支援体制・人材育成等に関する講義をいただき、パネルディスカッションにて、今後の岐阜市における支援の在り方・チーム作りについて協議した。

1. はじめに

- ・岐阜市障害者総合支援協議会の概要
- ・第8回専門部会の趣旨について

2. 講義

- ・テーマ：「住み慣れた地域で専門的な支援や助言を受けるには」
講師：独立行政法人国立重度知的障害者総合施設 のぞみの園 内山 聡至氏
- ・パネルディスカッション
司会進行：岐阜市基幹相談支援サテライトクロス 絹谷氏
パネリスト：独立行政法人国立重度知的障害者総合施設 のぞみの園 内山氏
岐阜県発達障害者支援センター 岩田氏
障害者総合生活支援センタークロス 源内氏
ル・リアン 平下氏
岐阜市立第二恵光・第三恵光・ケアホーム恵光 時岡氏

<内容>

□岐阜市における強度行動障がいの支援の在り方・チーム作りを検討するうえで、どのようなことが必要か。

〈主任相談支援専門員より〉

- ・まずは相談支援専門員が強度行動障がいのことを理解する必要がある。その上で、本人・家族・支援者の困り事を把握し、行政と協力する支援体制が重要。

〈サービス提供事業所より〉

- ・在宅期間が長いほど困り事は増幅し、通所や入所の支援につながりにくい。早期の

段階で相談支援専門員が介入し情報共有できると良い。

- ・強度行動障害支援者養成研修（実践研修）を修了しているが、強度行動障がいへの支援を行っていない事業所があるため、まずは支援を行ってみて、そこで生じる困り事を共有していく必要がある。

□今後の研修の仕組みについて。

- ・強度行動障がいの支援ができる事業所が十分でないため、県の取り組みとして、在宅の強度行動障がいの方をどのように支えていくかを検討する「強度行動障がい支援体制整備検討ワーキンググループ」を作った。研修は、「強度行動障がい支援者フォローアップ研修企画検討ワーキンググループ」を立ち上げ、実際の支援に携わる人材をどう育てるか検討を始めている。
- ・本人を取り巻く環境の変化を極力小さくしてサービスの変更や追加をしていくために、事業所間での情報の引継ぎ方法についての研修があると良い。
- ・研修の一環で、個別ケースを用いて事例検討していくと良いと思う。特に相談支援専門員が事例検討に参加していく必要がある。強度行動障がいの人々の自宅での生活等も踏まえて支援の検討をしていくことで、事業所の支援体制が整う。

□全国的に先進的な取り組みを行っている参考事例について。

- ・ある地域では社会福祉協議会という枠の中で、強度行動障がいに関する実践的な研修を継続的に実施している。
- ・現場の支援者のみの研修だけでなく、管理者（法人）にも人材育成のための研修に出席してもらうことで、強度行動障がいの理解を促していく。事業所全体で取り組むことで、研修を生かせる体制づくり・人材育成へとつなげていくことができる。
- ・岐阜市には先進的な地域のような、事業所の枠を超えた支援体制がないため、今後の課題である。

□事業所の枠を超えた情報共有に関してどう思うか。

- ・現在、岐阜市で強度行動障がい児・者への支援を提供している事業所は、約半数である。強度行動障がい児・者への支援が十分に行われていない半数の事業所においては、事業所の枠を超えた情報共有を行うにあたって、まずは強度行動障がい児・者の支援の経験が必要である。
- ・今後、強度行動障がい児・者を、医療や教育を含めて、予防的観点から捉えていく必要がある。

□岐阜市でも強度行動障がいに対応できるチームを今後作っていけるか。

- ・チーム作りの中心となって進めていけるような、核となる人物が重要。関係機関が集まり、自主的に勉強会を進めることで、徐々にチームとしての広がりにつながっていくと思う。
- ・まずは強度行動障がい児・者が身近にいることを知る。次にスキルアップ・レベル

アップにつなげていけると良い。

- ・強度行動障がい児・者の特性が異なると共に、支援者それぞれの経験も異なるため、体制整備の中で、それぞれに適した支援やサポートを明確にしていくと良い。

3. 当日の様子



4. まとめ

- ・強度行動障がい児・者への支援には、チームで支援できる体制を整備することが必要である。
- ・強度行動障がいについてよく知ることが大切であるため、積極的な研修受講や支援経験の蓄積ができると良い。
- ・支援者間での情報共有が大切であり、事業所の枠を超えた連携体制があると良い。
- ・今後の支援の在り方・チーム作りの検討のために、協議を継続していく必要がある。

5. アンケートの結果

①本日の専門部会全体を通して

- | | | |
|------------|---|-------|
| ・良かった | … | 37.0% |
| ・概ね良かった | … | 48.1% |
| ・普通 | … | 14.9% |
| ・あまり良くなかった | … | 0.0% |
| ・良くなかった | … | 0.0% |

②国立のぞみの園 内山氏の「住み慣れた地域で専門的な支援や助言を受けるには」について

- | | | |
|------------|---|-------|
| ・良かった | … | 59.3% |
| ・概ね良かった | … | 37.0% |
| ・普通 | … | 3.7% |
| ・あまり良くなかった | … | 0.0% |
| ・良くなかった | … | 0.0% |

③パネルディスカッションについて

- | | | |
|---------|---|-------|
| ・良かった | … | 44.4% |
| ・概ね良かった | … | 44.4% |

- ・ 普通 … 11.2%
- ・ あまり良くなかった … 0.0%
- ・ 良くなかった … 0.0%

④ 今回の専門部会の感想をお聞かせください（自由記載）

- ・ 岐阜市の支援体制のヒントになりうるため、ケース検討会や勉強会を実施して欲しい。
- ・ 包括的な支援体制を組む動きに賛成。
- ・ 本人が若年の時期から、支援員が本人の行動を記録し、支援者間で情報共有できれば、行動障がい軽減できるのではないかな。
- ・ もう少しパネルディスカッションの時間があるとよかった。
- ・ 今後、岐阜市が目指す障がい者支援の方向性が感じられた。
- ・ 他地域の取り組みを知り、岐阜市ではどう実現できるかの視点を持つことができた。
- ・ 強度行動障がいを知る大切さ・支援の難しさについて勉強になった。
- ・ 実際に強度行動障がい児・者との関わりがないためイメージが湧きづらい。
- ・ 行政・関係機関等との連携で、強度行動障がい児者への支援体制が作れたらと思った。
- ・ 日々の業務に加えて新たな役割が加わり、研修の参加等求められると仕事が回らない。
- ・ 今後、研修開催にあたっては、参加者それぞれの現状に合わせるため、誰の・何の目的とした研修なのか明確にされていると良いと思う。
- ・ ICTを活用した支援を進めていきたい。
- ・ 相談支援専門員として、事業者枠を超えた働きかけをしていきたいと思う。

⑤ 強度行動障がい児・者への支援について思うこと、感じていること等をお聞かせください（自由記述）

- ・ 障がいを理解して関わっていくことは大切だと思った。
- ・ 簡単ではないが、強度行動障がい児・者の支援を行い、管理者や支援者含めて関わっていききたいと思った。
- ・ 経験の中で人材は育つが、支援者全員に覚悟が必要で、強要できないため難しいと思った。
- ・ 現在実施している支援より、良い支援があるのではないかと感じた。
- ・ 実際に強度障がい児の保護者の中には、事業所との相談がうまくいかない・事業所の利用相談をしても、門前払いされ躊躇われている等の話を聞く。
- ・ 事業所の姿勢や意識を専門部会等から見直していけると良いと思った。
- ・ 同施設の他の利用者からの不満が避けられない・安心して見守ることができない・強度行動障がい児・者各々へのかかわり方は様々である等の理由で、支援は簡単ではないと思う。
- ・ 支援先での見守り体制だけでなく地域全体での支援体制・環境整備が大切だと思った。
- ・ 強度行動障がいの研修に参加したが、その後に生かせる場面がない。
- ・ 専門性を支援者とともに磨き、事業所の環境も整えていきたいと思った。
- ・ サービス利用を希望する強度行動障がい児・者が多い現状を知った。
- ・ 強度行動障がいについての研修があれば、現場支援者に参加してもらいたい。